

地域資源製品開発支援センターと佐久商工会議所が支援した
「藍の栽培・染色セット」が商品化され、発売されます。

地域資源製品開発支援センター(工業技術総合センター環境・情報技術部門)と佐久商工会議所が開催した「佐久 新商品開発塾」から発展した活動の中で、デザイン等を支援した企業が、「藍の栽培・染色セット」を商品化し発売します。

- 1 日 時 平成22年4月28日(水) 午後1時30分から
- 2 会 場 佐久商工会議所 3階 大会議室
(住所: 佐久市中込 2976-4 電話: 0267-62-2520)
- 3 内 容

当センターでは、地域資源を活用した製品開発を支援する一環として、新製品開発塾開催事業を実施しています。

昨年度、佐久商工会議所と共に開催した「佐久 新商品開発塾」に参加した佐久市の(有)岩崎呉服店 代表取締役 岩崎泰治氏は、呉服の他に、絹などの布製品を藍染し販売しています。この度、藍草の栽培方法や、藍草からの簡易的な染色方法を一般の人に知ってもらうために、「藍の栽培・染色セット」を商品化しました。



当センターでは、藍の種のセット化に至る企画からデザイン、商品化までを支援しました。尚、実施に当たっては(財)長野県中小企業振興センター地域資源・農商工等連携推進員と連携して行いました。

4 説明者・連絡先

- ・ 有限会社 岩崎呉服店 代表取締役 岩崎 泰治氏 (TEL 0267-67-2013)
- ・ 佐久商工会議所 小平 隆氏 (TEL 0267-62-2520)
- ・ 地域資源製品開発支援センター
製品開発総合プロデューサー 鈴木 進 (TEL 0263-25-0982)

地域資源開発支援センター
(工業技術総合センター 環境・情報技術部門)
(部門長) 田口宗治 (担当) 尾坂 一
電話: 0263-25-0981 (直通)
FAX: 0263-26-5350
E-mail: kankyojoho@pref.nagano.lg.jp

商工労働部 ものづくり振興課生活産業係
(課長) 小林 宰 (担当) 花岡 徹、清水北斗
電話: 026-235-7132 (直通)
026-232-0111 (代表) 内線 2973
FAX: 026-235-7197
E-mail: mono@pref.nagano.lg.jp

藍に親しむ

信州・佐久から藍染め入門セット

私は佐久市岩村田で呉服店を営みながら、絹や綿を藍で染めて販売しています。染色用の藍を作るために、畑に種をまき、藍草を育て、藍草を発酵させて染色しています。

藍染めは日本古来からの技法であり、佐久岩村田も昔から藍染めの盛んな土地でした。近年はすたれてしまいましたが、藍染めの良さを地域に広げようと日々活動しています。

現代の染め物は化学染料などを使うのが一般的ですが、藍草の生葉染めは化学薬品を使わない、廃液も畑にまいて肥料になるなど、環境にもやさしい染色方法です。また、藍には解毒や虫除け作用もあるとされ、色も薄い水色から紺色まで染められる日本人の生活に密着したすぐれたものです。

そのような藍の良さを伝えるべく、今まで、小学生などを対象に、藍を育てて簡単に藍染めが体験できる「生葉染め」の普及などもおこなってきました。

さらにもっと広く良さを知ってもらおうと、佐久 新商品開発塾に参加したのをきっかけに、地域資源製品開発支援センターの支援を受けながらアイデアを発展させ、ここに「藍の栽培、染色セット」をリニューアルし、販売することになりました。

岩崎泰治

藍の栽培・染色セット

ベランダで手軽に
藍を育てる

春、種をポットなどにまいてください。藍草が3〜5センチに育ったら、土におろすかプランターに移します。油かすなどの肥料を与えてください。夏、葉が6〜7センチ程になるまで育てます。



¥880 (税込)



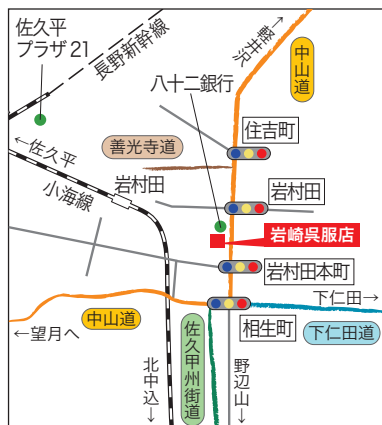
バケツひとつで火を使わず
藍を染める

夏、葉が6〜7センチ程に育ったら、葉をつんでちぎります。バケツに水を入れ葉をよくもむと緑色の染め液ができます。シルクのスカーフを入れてゆらゆらさせます。10分ほどで薄い水色(秘色・ひそく)に染まります。

お求めは

有限会社 岩崎呉服店 TEL 0267-67-2013 FAX 0267-67-1818

JR 長野新幹線「佐久平駅」併設 プラザ佐久 TEL 0267-68-7433 FAX 0267-68-7432



岩崎呉服店

有限会社 岩崎呉服店
〒385-0022 長野県佐久市岩村田775
TEL 0267-67-2013 FAX 0267-67-1818

染色用スカーフ各種、藍の種は郵送できますので、上記岩崎呉服店までお気軽にお問い合わせください。(代引き、送料別)



藍のこと

■ 藍草
藍草はタデ科の一年草、日本古来よりの染料植物。春に種をまき、夏に収穫する。

■ 藍染めの技法

藍建て染め：藍草を発酵させて染める日本の伝統的な技法。
生葉染め：生の葉を使って手軽にできる草木染めの技法。

※このセットの技法です

■ 藍と佐久岩村田

中山道から善光寺道、佐久甲州街道、下仁田道が分岐する交通の要所として栄えた岩村田宿。藍は毒虫やマムシが嫌うと伝承されていることから、街道の旅支度には藍で染めた衣服が必需品でした。江戸時代中期の享保年間、岩村田には6軒もの紺屋がありました。また、「藍玉通帳」など佐久に残る江戸、明治の文献からも、藍染めがかなり盛んなところだったと推測されます。